

2020年「国際ジェンダー学会研究活動奨励賞」研究活動報告書

1. 提出日：2021年12月30日

2. 提出者氏名：福永玄弥

3. 申請した研究テーマ：

「良き市民」への包摂をめぐるポリティクス：韓国の徴兵制における同性愛者の処遇を事例に

4. 研究活動報告

【研究活動報告の要約】

大韓民国の軍隊における同性愛の処遇に焦点を当て、その歴史的变化や、変化を促進した背景を考察した。

【明らかになったこと】

日本植民統治からの解放後、朝鮮戦争を契機に冷戦体制に組み込まれた韓国では、軍事主義が独裁体制を正当化した。冷戦状況への対応と安全保障の要請から1949年に導入された徴兵制（1951年運用開始）は、国籍を持つ男子を兵士につくりかえるとともに国家のために命をも犠牲にする〈国民〉を再生産する政治制度であった。兵役を完遂した軍畢男性は、労働倫理や社交能力や一般常識を備えた成人男性として承認され、男同士の絆や連帯をつうじて公的領域すなわち男社会への参入を歓迎された。

だが、男子徴兵制は国籍を持つすべての戸籍上の男性を徴集したわけではなかった。兵役判定時に実施される徴兵検査をまとめた規則（「兵役判定身体検査等検査規則」）は、身体や精神の疾病を詳細に分類して兵役に不適切な男性を抽出した。そして兵役に不適切とみなした男性にはその逸脱度に応じて異なる劣位カテゴリーを付与した。一部には「代替役」として銃後の任務を課し、残りの男性は兵役から完全に排除した。韓国社会において国籍を持つすべての男性は国防の義務を課され、社会生活を営むにあたって軍畢者であることが期待されるため、「軍畢」カテゴリーからの排除は男性として得られるはずの利益から疎外されることを意味した。そして、国家に貢献する男性を献身的に支える役割を女性に課すことを目的に、女性を私的領域へ配置するためのさまざまな政策や施策が儒教規範と結びついて冷戦期に推進された。

本研究では、徴兵検査の疾病分類のなかでも陰茎と睾丸の状態、勃起や生殖に関する機能や能力、インターセックスやトランスジェンダーや同性愛に関する規定を詳しく検討した。

これらの作業から、冷戦体制下で韓国社会に定着した徴兵制は、生殖すなわち〈国民〉の再生産が不可能であると判断した男性を国防に不適切な身体とみなしていることが明らかになった。徴兵制は、生殖に寄与しないとみなされた男性を病理化して規範的外部へ排除することをつうじて、シスジェンダーで、ヘテロセクシュアルで、生殖可能な男性身体を〈正常な男性〉とする規範を形成、保持してきたのである。

男性同性愛者やトランスジェンダーやインターセックスと判定された身体は、軍隊という国家機構をつうじてスティグマ化され、差別の対象とされた。このように軍事主義と結びついた性的少数者に対する差別的な制度は、米国の安全保障の保護のもとアジアで特権的なポジションを占めた日本にはみられないものであった。ポスト冷戦期の韓国で発展したバックラッシュにおける「反同性愛」言説は、安全保障の論理や「亡国」といったナショナルな表現をともなって同性愛者（とりわけゲイ男性）を「国家の敵／公敵」として他者化した。このような言説が保守の市民連合を促進する言説資源として流通した背景には、冷戦期の軍事主義とその中核的な政策として位置づけられた男子徴兵制との関わりが強くあると指摘することができる。

しかし 2009 年には国防부가「同性愛者の兵士の人権保護」を含む部隊管理訓令を公布した。国防부가このような「ゲイフレンドリー」な方針を打ち出した背景として、軍内部の人権侵害が 2000 年代に入ってから性的少数者運動や進歩派メディアによる告発をつうじて社会で可視化されたこと、そしてこれらの告発が国家人権委員会や国際 NGO や国連といった国内外の政治組織によって正当性を付与されたことが重要である。その結果、カミングアウトした同性愛者の兵士を軍隊に歓迎する方針が打ち出されたのである。

グローバル冷戦が終わりを迎えた現在も朝鮮戦争の終結が宣言されず、北朝鮮との緊張状態が断続的に可視化される韓国社会において、保守派は同性愛者を国家や軍事力を内側から蝕むナショナルな敵として他者化する言説をつうじて大韓民国ナショナリズムの増強を試みてきた。ポスト冷戦期の韓国では軍事主義の残滓が、軍隊における同性愛に対するスティグマを保持する重要な背景になっている。すなわち、軍隊における同性愛の処遇は、性的少数者運動と保守のバックラッシュとの間できわめて論争的な政治イシューとなると結論づけることができる。

【成果】

本研究の成果は以下の 3 点で公表した。

1. 福永玄弥, 近刊, 「冷戦体制と軍事化されたマスキュリニティー—台湾と韓国の徴兵制を事例に」小浜正子編『東アジアジェンダー史論文集 (タイトル未定)』京都大学出版会, 頁

数未定.

2. 福永玄弥, 2021a, 「ポスト冷戦期東アジアにおけるセクシュアリティの政治—台湾と韓国の事例から」 東京大学大学院総合文化研究科 2021 年度博士論文 (2022 年 1 月最終審査予定) .

3. 福永玄弥, 2021b, 「東アジアのクィア・アクティヴィズム—安全な空間と不適切な身体 (ピョン・ヒスさんを追悼して)」 出版舎ジグ (https://jig-jig.com/serialization/fukunaga-quaia-activism/fukunaga_extra/?fbclid=IwAR2vFaHtRdtkCT1XGsMTPZ51PUzGTPSJ1bi8bBGidetRYHvg1a0jv0OK2Wo) .

以上